

氏名 高 田 秀 雄

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学位授与番号 乙 第 717 号

学位授与の日付 昭和50年12月31日

学位授与の要件 博士の学位論文提出者
(学位規則第5条第2項該当)

学位論文題目 **Studies on Blood Groups of Human Teeth**
(歯牙の血液型に関する研究)

Part 1. Identification of ABO Blood groups from Permanent and Deciduous Teeth by Means of Elution Test

(第1編 解離試験による永久歯及び乳歯からのABO式血液型判定)

Part 2. Identification of ABO Blood Groups of Teeth Left Standing under Various Conditions

(第2編 種々の条件下に放置された歯牙からのABO式血液型判定)

論文審査委員

教授 西 嶋 克 己

教授 緒 方 正 名

教授 西 田 勇

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

実地法医学ならびに犯罪捜査上の必要から解離試験法による歯牙からのABO式血液型の判定について研究を行ないつぎの結果を得た。

1) 解離試験により永久歯及び乳歯の小片についてABO式血液型の判定は可能であり、方法も簡単で歯牙の使用量は6～10mgで十分であり、従来の凝集素吸収試験等の判定法に比較すると歯牙の使用量は50～100分の1量でたりる。

2) 唾液型、すなわち分泌および非分泌型と歯牙からのABO式血液型との間には相関はみとめられない。

3) 歯牙の血液型物質は軟組織である歯髄のみならず象牙質およびエナメル質の硬組織にも存在することを確認した。

4) 室内に放置された3年後の歯牙、砂中に埋没された2年後の歯牙、水中に放置された2年後の歯牙、100℃4時間、150℃2時間、200℃15分間加熱された歯牙についても解離試験によりABO式血液型の判定は可能であった。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、実地法医学ならびに犯罪捜査上の見地から解離試験により歯からのABO式血液型の判定を企図したもので、従来の凝集素吸収試験等の判定法に比較してはるかにす

くない歯の使用量で足りる等の新知見を有し，価値ある業績と認める。
よって，本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。